# 弘法大師正御影供

## 4月18日(日) 午前9時より

# 轉法輪

妙薬は
病を悲しんで興り
仏法は
障を愍んで顕わる
弘法大師

令和三年三月二十一日発行
発行所　犬飼山　轉法輪寺
〒六三七―〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話　〇七四七―二二―四四〇三
FAX　〇七四七―二五―四七一七
編集発行人　桑山　聖淳
印刷所　森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

若草の萌え出す季節になりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。境内の梅と早咲きの涅槃桜が競い咲き、春光に眩しく光ります。

四月の第三日曜日は、弘法大師正御影供を執行致します。皆さまごいっしょに法悦のひとときをすごしましょう。

**法　要**　午前九時より

**法　話**　午前十時半頃より

**「ブラジル日系人の幸せとは」**

本山布教師
高照寺名誉住職
**密　祐快僧正**

二〇一六年より三年間、南米開教師としてブラジルに赴任された折のお話を伺います。

**御影供祈願札授与**

**お餅のふるまい**

◎感染防止にご協力ください
消毒・検温に加え、堂内人数を制限いたします。満席になり次第、別室へご案内いたします。
ご了承くださいませ。

犬飼山　轉法輪寺

**お大師さまのお言葉**　医療は病で苦しんでいる人を救いたい心から起こった。仏の教えも同じく、煩悩に苦しむ人を憐れみ救おうという慈悲心に応じて顕れるのです。

# 般若心経秘鍵

住職　桑山慈紹

弘法大師の御作『般若心経秘鍵』の中に、

「真言は不思議なり　観誦すれば
無明を除く　一字に千里を含み
即身に法如を証す」

と説かれています。

拙寺には、様々な悩み苦しみ、嘆き悲しみを持って来られる方の参拝が後を絶ちません。みなそれぞれに願いを持って、今日も寺の門をくぐられます。

人の世に生を受けた以上、悩みはつきものです。その人・その家に過去現在未来があって、同じものはありません。「悪い因縁を切ってくれ」と言われても、ダイコンやニンジンを切るように容易くできるものでもありません。

私は、因縁をほどく一方法として、家の系図を書くように勧めています。それは、現在に至るまでの尊い命のバトンタッチの姿です。系図を拝見するたびに「ああ、何とご苦労なさった、有り難いお姿だなぁ」と思います。簡単に令和の今まで続いた家なんて一軒もありません。

そして更にじっと見ていると、「祖父は長男だとばかり思っていたが、その前に幼没の男子がいるのか」などといったことに気付きます。今まで全く顧みられなかったご先祖さまがおられる場合がチョコチョコあります。

戒名もなく供養も受けずにいた霊たちは、墓地や仏壇の片隅で自分の存在を訴えますが、悲しいかな声なき声であるため、不足を我々の身体や精神に出してくる時があります。その霊を知り、供養することによって、その家の永年の悩み苦しみが消えることが多くあります。

また、系図には別れの因縁も見えてきます。結婚のときはエビス顔、離婚の時は夜叉の顔。おおむね離婚する時は相手が原因だと主張されますが、第三者の私から見れば、五十歩百歩という場合がほとんどです。いわんや裁判まですると、明らかに遺恨が重く深く残ります。

四国霊場番外札所、海岸寺の高橋厚温和尚曰く、「すんだことはすんだこと。その時ゃその時。まぁいろい

ろあらぁね」と三返言いなさいと教えてくださいました。これは般若心経「空（くう）」の心をやさしく説いた金言であります。

人間の世界において、百点の人なんて見たことがありません。反対に0点という人も見たことがありません。みんな良いところもあるし、まあチョットな、といった欠点も持っているのではないでしょうか。私自身も、どうも百点は取れそうもありません。皆さんはどうでしょうか？

素直な気持ちになって、相手への腹立ちを治めることです。自分自身すまなかったなぁと反省懺悔（ざんげ）することです。この懺悔の心・許す心ができれば必ず幸せがやってきます。そしてお導き下さったお大師様に「南無大師遍照金剛」とお唱えしましょう。

合掌

# 生かせいのち

## 【第六十七話】

名誉住職　桑山聖規

### 「徳は天にあり。」

「そんな、棚からぼたもちを待っているようでいいんですか」そう言った私の頬を、「そんなこともわからんのか！」と安城の大見先生はぴしゃりと張った。

その後、軍隊に二度召集されたものの、即日帰郷を命じられた私は、奈良県桜井市の山の中にいた。一宮不動尊の紹介で、山中修行の師につくためだった。

肺結核で、軍隊に居れないというのは、戦時においては役立たずも同然。決死の覚悟で修行に臨んではいるが、師匠の川村師は、私が虚弱であることを気にもかけず、桜井の町中まで歩いて買い物に行かせるのだ。

米二斗（三十キロ）に加えて、様々な食品を背中に担いで山を行き来し、行では滝に打たれる毎日。当然、漸々と体は弱っていく。

ついには滝行の間に気を失い、薄れる意識の中で、「もう、死んだんだな」と感じたが、目が覚めると、私は、よみがえったように元気にならせていただいた。

もし病を気遣い床に臥せっていた

家相・方位の相談をお受けいたします。新築・リフォーム・転宅の際はご相談ください。

なら、じきに死んでいただろう。
生死を越えて不退転の心で修行したことにより、救いの道が開けたのだった。
徳は天にあり。神仏の力、それ自体を追い求めるのではなく、一生懸命に精進する姿についてくる。身をもって実感した出来事だった。
（令和三年三月談　聞き手・後住）

## 生きる事は　恩を受けること
## 生きて行くことは　恩を返すこと

寺族　桑山蓮紹

ああ、夕立がふってきた！
屋根のあちこちからポタポタもる雨水に、バケツ・洗面器・時にはお鍋まで出す始末。
今は立派なお堂になりましたが、転法輪寺に入ったころは、拝むどころか住むのにもやっとでした。
まずは屋根の修理をし、瓦を葺き替えて。御祈願するのに護摩を焚くため、庫裏の物入れを空けて護摩壇を作ったものの、建付けの木が護摩の火にくすぶりだす。
祈願のための護摩堂。皆が集まるための教堂。本堂と庫裏、明神社の修繕。
お寺の復興のためには大変な力が必要でした。あまりに大きな目標に戸惑う私たちの背中を押し支え、協力してくれたのは、檀信徒のみなさまでした。
復興祈願のお写経は、今は計りしれない大きなご恩への感謝の写経となり、この三月二十一日、目標の五千巻に達することができました。さらに、私の命ある限り続けていこうと再び心に誓った次第です。

南無大師遍照金剛　合掌

## もらってくらべて

副住職　桑山聖淳

とある実験があります。
「サルは不公平さを感じるか？」
カゴに入った二匹のオマキザルに簡単な芸をさせて、ごほうびに食べ物をあげます。芸といっても、とっても簡単。置いた小石を拾ってこちらに返すだけです。
まず左のサルから。すぐに石を返してきたので、キュウリをあげました。賢いサルのこと、「こんなん、楽勝やね！」ってな様子でポリポリッ～と嬉しそうにキュウリを齧り始めました。
さて、次は右のサル。こちらもちゃんと石を返せたので、ごほうびです。右のサルには「ブドウ」をあげます。実は、オマキザルの大好物はブドウなんです。

水子の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

その様子を見ていた左のサル。「あれ、なんで？自分もらったのキュウリなんやけど？同じことやったよね？」とでもいうような表情で見ています。「次は自分も、ブドウもらえるんかな！」と、もう一度石を拾って返しますが、くれるのはやっぱりキュウリ。そして右のサルにはブドウ！

ついにはもらったキュウリを投げ返して、「ブドウをよこせ！」と怒り出してしまいました…。

この実験、サルだって怒るのも当然です。同じことやってるのにですよ？もらえるごほうびが違うなんて、まったく理不尽です。

…でも、もしお互いもらえるものが見えなかったら、どうだったのでしょう。初めは嬉しそうにキュウリを齧っていたのに、隣のブドウが見えたから、不公平だ！と思ってしまった。見ていなければ、比べなければ、キュウリに満足していたかもしれません。

我々も似たところがありますね。むしろ人間の方が、他人とくらべてあーだこーだと考えがちです。やれ、同じ仕事をしているのにあいつが先に出世したとか、給料がいいとか。少しばかり若くって、顔かたちが綺麗ってだけで、人の対応が違うのはどうして、とか。

そして、今はＳＮＳで、いつでもどこでも他人と比べられるようになってしまった。四六時中キュウリを投げつけたい気分になれちゃう道具が手のひらに！　なんてスバラシイ現代社会でしょう。

それに対する正答は、やっぱり「見ない」なのだろうと思います。お釈迦さまが亡くなられる時に、弟子に残した教えは「自灯明・法灯明」でした。「自らを拠りどころとせよ。私の残した教えを拠りどころとせよ」と言い残されたのです。

「人と比べることをするな。誰かを行動の基準とするな。自分自身を見つめよ。」大昔のインドでも、修行の成果や、市井の皆からの評価。気になるものはたくさんあったはずです。お釈迦さまは、それを「気にするな」と言われました。

我々は、もらったキュウリの美味しさを、存分に味わい、喜ばなくてはいけないのでしょう。いたずらに他人と見比べてしまうことは、すでに自分の手の中にある幸せから目を逸らしてしまうどころか、誤って投げ捨ててしまうことにもなりかねませんから…。

## 第一回「娑婆（シャバ）」

「シャバの空気は美味いのう」

任侠モノの映画でおなじみ？の、この

お子様の撰名を致します。出来るかぎりご両親の希望に沿いながら、
姓名学に則った良名を選ばせて頂いております。

セリフ。檻の中から解き放たれて、どこにでもいける自由の身を満喫しようというところでしょうか。ムショよりはマシだろうけど、外の世界は、それはそれで面倒なことも多いのよ…そう思っていたあなた、正解です。

…それ、もとは「仏教語」です！

サンスクリット語（古代インド語）の、「サハー」からきていて、「現実の世界」を意味します。私たちが生きているこの現世ですね。

もともとサハーは「大地」をさしました。山などの重みに耐え、我慢しながら支える大地。そう、実は「シャバ」も「苦しみを耐え忍ぶ場所」という意味だったのです。

損得勘定や、人に認められたい気持ちなど、様々な煩悩に振り回されながらも、捨てきれないままに生きていくのがこの俗世間。だからこそ、お釈迦さまが教えを説き、救いの道を示されたのですね。

# 伝えたかった気持ち

坂田 笑津子

振り込みする用事があって、開店早々の銀行に出かけた。

「いらっしゃいませ」。元気のいい声とともに若い男性行員が近づいてきて、私に要件を聞いてくれた。

振り込みをしたい、と告げるとATMの前に案内された。

一瞬、ハッとした。彼の手に障害があったからだ。生まれつきのもの、と理解できた。不自然な態度をとらないだろうか。どきどきしないだろうか、と自分の心を見つめた。

彼は必要事項を聞くと、画面を左手の甲で軽くグーをするようにタッチしていき、手続きを完了させた。その態度はテキパキしていて、仕事に対する一生懸命さが感じ取れた。

私が障害を意識したのはほんの一瞬。本当に自然にサービスを受けることができた。

「育てたように子は育つ」というが、障害にめげず、ここまで成長された青年を見て、彼の努力はいうまでもないが、育てられたご両親の立派さを思った。

そして今すぐにでも飛んで行き、「息子さんはしっかり仕事なさっていますよ」と伝えたい衝動に駆られた。

〈寺嫁日記〉

# あした天気になあれ

その十

小松 裕衣

## お四国編

出会いと別れの春が今年もまたやって来ました。この季節にいつも思い出すのは、今から十六年前の春休み、一人で四国遍路に出た時のことです。当

ご詠歌、祈祷太鼓の練習会を開いています。
体験参加歓迎！寺務所までお問い合わせください。

時、私は奈良県御所市で小学校の教員をしていました。念願だった教職に就くことができたものの、悩みも多く、ふと「お大師様に会いたいな…幼い頃両親に連れられてバスでお参りした道を、今度は一人で歩いてみようかな…」と、今思えば少し危険な旅に出発しました。両親は「お四国なら大丈夫だ」と見送ってくれました。

お遍路さんを案内してくれる石標に導かれながら、一番霊山寺、二番極楽寺…と歩いて行きました。地図を片手にてくてく歩いていると、普段は見過ごしてしまうような道ばたの草花や鳥たちのさえずり、雨の日には雨音、川のせせらぎに心が洗われるようでした。七番十楽寺を出て、八番熊谷寺を目指して歩いていた時のことです。知らないおじさんに声をかけられました。「八番さんまで近道があるから案内してあげよう」というのです。お四国はお接待の精神が根付いた土地です。「ああ、ご親切に。ではお願いします」と、若かった私は疑いもせず、おじさんの後をついていきました。

どの位歩いたでしょうか。おじさんはどんどん山の方へ歩いて行き、大きなトンネルに入って行きました。「おかしいな…」私はいよいよ不安になり、だんだん怖くなってきました。その時です。トンネルの入り口から私を呼ぶ大きな声が聞こえてきたのです。「ついて行っちゃいか～ん！はよ戻ってきて、わしの車に乗れ～！」

前を歩くおじさんか、後ろで車に乗るようにさけぶおじさんか…とっさに私は来た道を引き返し、トンネルの入り口へと走っていました。「あんた、あのままついて行ったら身ぐるみはがされてダムに突き落とされとったぞ。八番さんまで送ったる。もう大丈夫だ」おじさんの言葉にほっとして涙が止まりませんでした。

後から聞けば、台所にいた奥さんが、不審な人についていく若いお遍路さんを見て、畑にいたお父さんを呼んできて、すぐさま車で助けに来て下さったというのです。私はおじさんの連絡先を聞き、お礼を言って別れました。涙でにじんだ熊谷寺の多宝塔を今でもよく覚えています。その後は無事に十二番焼山寺まで打ち終え、私のお遍路は終わりました。

あの時私を救って下さった命の恩人・稲井清さんは昨年八十才になられました。今でも私をまるで我が子のように応援し、可愛がって下さいます。転法輪寺の団体参拝の時にもお接待いただいたり、私の嫁ぎ先の兵庫県のお寺・圓光寺にも会いに来て下さいました。

「助けられた私ではなく、なぜ助けたあなたが私に…？」あまりにもよくしていただくので、稲井さんにその訳をきいたことがあります。

「わしらみんな昔からお大師様にはお世話になっとった、そやけんお四国に来られる人には恩返しのつもりで、自分のできることをしようと思っとるんじゃ…」稲井さんはニコニコしながら答えてくれました。

青い空、あたたかな風、目を閉じると、鈴の音がきこえてきたような気がしました。

本誌『轉法輪』に掲載する寄稿文を募集しています。仏さまに関することや、心動かされたエピソードがあれば寺務所までお送りください。

# 正御影供

## 来る 4月18日(日)

**法　要**　午前九時より

**法　話**　午前十時半頃より

**「ブラジル日系人の幸せとは」**

私達の社会では失ってしまったものが
今も生きている日系人社会

兵庫県養父市 栂尾山高照寺
名誉住職　**密　祐快僧正**

〈プロフィール〉
一九五三年、高照寺の長男に生まれ、高野山大学に進学するが二年次に中退。アジア・南米を放浪する旅に出る。貧村の人々と生活を共にする中で、多くの子どもたちの死を目の当たりにし、「生と死」の命題と向き合うこととなる。
二〇〇二年より本山布教師に就任。
二〇一六年より三年間、ブラジルに南米開教区総監として赴任。
美術造形作家としての一面も持つ。

**―ご奉仕のお願い―**

正御影供の当日お手伝いをよろしくお願い申し上げます。

**四月十八日(日)**　当日（八時から）

お世話人様は、ハッピ・袈裟腕念珠をご着衣下さい。

## 盲導犬チャリティ御礼

初詣におまいり頂き、ありがとうございました。

三日の鏡開き法要の際に、境内でサービスドッグ協会主催の、リタイアした盲導犬の老後を支援するチャリティを行いました。

人の為に人生（犬生？）を捧げた犬たちですが、現役を終えると、国から何の支援も受けられないのが現状です。皆さまの温かいご芳志が、犬たちの生活を支えています。

ご協力誠にありがとうございます。

今年もワンだフルな年に!!